

学校教育連携型ビリヤード普及事業 藤沢総合高等学校 授業支援 全体整理と反省

2026年1月15日
神奈川県ビリヤード協会 事務局

1. 事業全体の整理

実施概要

- 実施回数：全4回
 - 第1・2回：同日（5限・6限）連続授業
 - 第3回：技術要素＋ゲーム導入
 - 第4回：最終回（ゲーム中心・表彰あり）
- 生徒数：12名
- 設備：学校設置ビリヤード台2台
- 体制：
 - プロ講師 2～3名
 - KBA サポートスタッフ 3～4名
- 準備物：
 - 各回とも20～30項目超の準備リスト
 - 役割分担を明確化し、当日運営は滞りなく実施

⇒ この結果、運営・進行・安全管理面での大きなトラブルはなし

2. 成果として確認できた点

① 授業としての評価は極めて高い

- 授業満足度・分かりやすさ：100%肯定評価
- ゲーム性・練習内容の楽しさも高評価
- 女子プロによる指導：100%「とても良かった」

② 生徒の意識変化が明確

- 「敷居が高い」「大人の遊び」
→ 「身近で楽しいスポーツ」「努力が結果に出る競技」
- 興味喚起は全員に達成
- ビリヤード場に行ってみたい：92.3%

⇒ 「体験授業」としての目的は十分達成

3. 反省点・課題

反省点①

準備・人員負荷が非常に大きい

事実として

- 各回とも準備物 20～30 点超
- 当日対応：「進行管理」「得点管理」「30 秒ルール管理」「写真撮影」「生徒フォロー」
- 講師+KBA サポートスタッフが複数名がいないと成立しない構成

理事会で考えるべき点

- 今回のクオリティを毎回・他校でも再現できるのか
- 協会事業として「継続可能な負荷なのか」「属人化していないか」

⇒常に複数名のプロや KBA サポートスタッフが必要な構成になっており、この体制を今後も前提とするのか、それとも簡略化したモデルを作るのかを、協会として一度整理する必要がある

反省点②

授業の「完成度」と「普及の持続性」が必ずしも一致していない

アンケートから

- 興味・満足度は非常に高い
- しかし同時に「初心者が行ってよいか不安」「ルール・マナーが分からない」「料金が高そう」

整理すると

- 授業内では「楽しい・できた・盛り上がった」
- しかし授業外では「その先が見えない」

⇒学校内完結型としては成功。しかし、地域普及モデルとしては未完成。「行きたい気持ちはあるが、次の一歩が分からない」状態であり、普及事業として考えるとまったくない段階だと捉えられる

反省点③

到達目標・成長指標が明文化されていない

自由記述より

- 「最終的に何ができれば良いか分かると達成感がある」
- 「レベル表があれば自主練できる」

現状

- 授業内容は整理されている
- しかし「Lv1 / Lv2 / Lv3 のような」「協会としての共通指標は未整備」

理事会での論点

- 学校連携事業として「何ができたら成功か」を協会として定義すべきか

反省点④

成功事例が「個別対応」に留まっている

現状

今回は「教員との密な調整」「綿密な事前準備」「人数を投入した対応」によって成立している

課題

藤沢総合高等学校は全国でも初めて学校へのビリヤード台をできた事例で授業支援もパイロットプランとして手厚くサポートしている。しかし、今後は他校から依頼が来た場合、同じレベルで対応できるのか、判断基準が協会内にない。

⇒神奈川県教育委員会にコンタクトを取り、他校のビリヤード台の導入ニーズはあるのか確認を始めている。将来的にビリヤード台を導入することができて他校から依頼が来た場合の対応について議論したい（急ぎの案件ではないのでペンディングも可）

4. 理事会で話し合うべき本質的な問い

理事会では、次の問いを共有したい。

1. この規模・負荷の授業を、協会事業として継続するか

継続するなら「どこを簡略化するか」「どこを最低限の型とするか」

⇒「今回はできたこと全部を続けるかどうかではなく、これだけは削れない最低ラインを決めた方が良いのではないか。」

2. 「体験授業」と「普及導線」を協会としてどこまで担うのか

「協会はきっかけ作り（ビリヤード体験）までを責任範囲とするのか、それとも次の行動（部活、加盟店舗への誘導）に移れるところまで関与するのか」という線引きについて。

- 学校内で実施するビリヤード授業
- 目的：「楽しさを知ってもらう」「基本を体験する」「印象を変える」

⇒今回の事業は、ここは完全に達成している

普及導線とは授業後に「じゃあ次はどうする？」が分かる仕組み

例：「どこでできるのか」「初心者はどう始めるのか」「高校生でも行ってよいのか」等

⇒アンケートではここが不十分だったことが可視化された。

【レベル1】体験授業のみ（最小関与）

協会が担う範囲

授業内容の提供 講師派遣 安全管理

担わない範囲

授業後の行動案内 店舗情報提供 ルール説明の続き

メリット： 負担が最小 実施しやすい

デメリット：興味は生まれるが行動につながりにくい 「やった感」で終わる可能性

【レベル2】初期導線まで（現在の状況）

・協会が担う範囲

体験授業 初心者向け簡易ガイド ルール・マナー概要 「最初の一步」の提示

・担わない範囲（現在の状況の範囲の中でも曖昧な部分）

個別店舗への斡旋 継続指導 来店後の対応

・メリット： 行動への心理的ハードルを下げられる 協会の負担は限定的

【レベル3】継続普及まで（高負荷だがKBAは課題と認識して取り組むか？）

・協会が担う範囲

体験授業 導線設計 店舗連携 継続プログラム設計

・メリット： 普及効果は最大

・デメリット： 人手が大きい 協会の役割が肥大化

⇒現状の体制では慎重判断が必要

3. 成果を「個別成功で終わらせるか」「協会の標準モデルにするか」

つまり、今回の成功を、その学校・そのメンバー（女子プロ・特定のKBAサポートスタッフ）だからできた特例として扱うのか、それともKBAとして再現可能（属人的ではない）なやり方として整理するのか。

5. 今後について

- ・ 今回の授業は成功したからこそ、限界も見えた事例
- ・ 現場努力に依存した形から協会として判断・整理するフェーズに入ったと考えている。

理事会では「KBAは、どういう形なら今後も公益活動の1つである授業支援を継続できるか、増やしていけるか」議論したい。